

令和6年度 能美市立辰口中央小学校 学校評価【中間評価】

重点目標	具体的方策	主担当	評価指標	達成度判断基準	前期評価	取組状況	2学期以降にむけて
1 組織的 働き方 改革 学校 運営	①組織の力が生きる学校 辰口中央小の一員として、 校長ビジョン実現のため に、行動のベクトルを一 つにし、組織の力が生きる 学校づくりに努める。	教頭	主任を中心とした 各組織がPDCA サイクルを機能さ せ、課題と重点を 共有し連携して取 り組める組織を構 築している。	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 教100	学校組織運営の実態や状況を踏ま え、課題と重点を共有しながら取 組みを進めている。学校全体が、各 主任を中心にした各部組織が校長 ビジョンの具現化に向けて主体的能 動的に動いている。	教職員一人一人が参画意識を働か せ、課題と重点を共有しさらに協働意 識をもって、教育活動を進められる ように各組織の連携を確実にしてい く。
	②働き方改革の推進 教育活動の見直し、業 務の効率化・平準化に よる業務改善を推進す る。	教頭	業務のスリム化、 効率化、平準化を 図り、時間外勤務 時間が月80時間 を超える教員を なくす。	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 教93.3	4~7月の平均は46時間程度(昨 年同期-7h)である。各部組織が 複数体制で業務を進め、ICT機器を 効果的に活用し、各部組織が連 携しながら、教育活動の充実を図 っている。	今後も「働きやすい環境づくり」に努 め、ICT機器を校務や授業で効果的 に活用できるように体制を整えてい く。また、教育活動の精選、見直し など常に業務の改善を進めながら、 業務の効率化平準化につなげてい く。
2 確かな 学力の 育成	①子どもが目標達成 する授業 組織的・計画的に校内 研修を実施し、「子供が 主体的に学び、目標達 成する授業づくり」に努 める。	研究 主任	「付きたい資質能 力の明確化」「課 題に向かう個別 最適な学び」「考 えを練り上げる協 働的な学び」の 3点を重点に授業 改善をすすめる。	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 教100	めざす姿の具体を教職員だけでな く、児童とも共有し、中央小スタン ダードの共通実践に取り組んでい る。算数科の授業を中心にマイスタ 学習を取り入れ、45分間の中で「個 別最適な学び」と「協働的な学び」 を往還させ、一体的に充実させた 授業づくりに努めることができている。	マイスタ学習を取り入れたことで、子 どもが主体的に学ぶ姿は見られる ようになった。マイスタの時間が型 だけのものにならず、付きたい資 質・能力をつけ、目標達成できる 時間となるよう、取り組みのポ イントを明確にし具体とともに 提案していくことで授業改善 及び授業づくりに努めていく。
	②学力の向上 学力向上プランの組織 的取組により、基礎基 本の定着と活用力の向 上を図る。	主幹	国語・算数の学期 末テストにおい て、平均が90点 以上なる。	<学期末テスト> A: 90点~ B: 80点~ C: 70点~ D: 60点未満	B 国85 算83	学力向上プランに基づいて検証し ながら取り組んでいる。また校内 研修会では、国語科・算数科それ ぞれの課題を共通理解し重点単 元を設定し具体的な策を考えた 授業づくりに努めている。	8月の校内研修で付きたい資質・ 能力をつけるための各学年の指 導法を交流する。特に、思・判・ 表における力が付くように、研 究部と連携を密にし、授業改善 の視点を明確にし取り組んで いく。
	③ICTの効果的活用 校内外GIGA研修を通 して、全員がICT機器 の効果的活用による授業 の充実を図る。	主幹	ねらい達成のため に効果的ICT 機器の活用につ いて研究および 実践を推進する。	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	C 教70	GIGAチームによるICTを活用した 授業づくりに向けた研修を実施し 、端末活用の幅が広がるように 取り組んできた。4月と比べ、 ICTの効果的な活用の視点では、 まだ課題が残る。	8月、ICTを活用した授業実践を 交流し、ICTの効果について明 確にしていく。さらに、外部講 師の講話を聞き、「ICTの効果的 な活用」について理解を深めて いき、2学期の実践につなげて いく。
3 豊かな 人間の 性の育 成	①「元気に明るく笑顔で 登校」できる学校 生徒指導の4つの視 点を生かした教育活 動を推進し、自己存 在感の向上を柱に 全員が「元気に明る く笑顔で登校できる」 学校づくりに努める。	生徒 指導 主事	生徒指導の4つの 視点を生かした 教育活動を推進 し、「学校は楽しい」 と答える児童を 増やす。	<児童アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 児94.4	自主的・自治的な児童会活動や 実行委員会制、生徒指導の4つ の視点を生かした授業づくり など、自己有用感を高め、主体 性の向上を図る取り組みを学 校全体で共通理解して進めた。 高学年も昨年度より肯定的な 評価が上がった。充実感が 「楽しい」と思える児童を増や したい。	学校評価からみえる児童の実態 を検証し、2学期の取り組みを 明確にする場を校内研修でと る。子どもたちが授業や行事 などにおいて「わかった・でき た」という経験を増やし、また 行事や縦割り活動等において 教師が価値づけることで自己 肯定感を高め「学校は楽しい」 と思える児童を増やしたい。
	②あたたかく寛容な校 風 明るいあいさつや温か な言葉や反応を大切 にし、温かく寛容な校 風づくりに推進する。	生徒 指導 主事	学校・家庭・地域 において、常に 明るいあいさつ やあたたかい反 応をし、自他を 大切にする心を 育む。	<児・保アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 児97.5 保83.7	運営委員会による3つの「あ」 を全校に発信したり、各クラス でのあいさつ指導などの取 組みを通して、あいさつを 大切にする心と姿勢を育む ことができた。しかし、地 域の方への主体的なあいさつ ができない児童が見られる ことが課題となっている。	2学期は児童発信で、継続 的に挨拶できるシステムを つくりよりよい校風を作り 上げていきたい。特に、地 域の方への積極的なあいさ つを児童会や生活委員会 発信で全校に呼びかけ、 広がる挨拶を目指してい きたい。
4 健やか な心身 の育成	①体力・運動能力の 向上 縄跳びを利用した運 動を取り入れ、課題 である俊敏性強化に 取り組む。	保 健 主 事	反復横跳びの記 録を年間2回と り(5月と12月)、 校内平均が伸び ている。	<スポーツテスト> A: +5%以上 B: +2%~ C: -2%~ D: -2%以下	前期評価 なし	本校児童のスポーツテスト、今年 度5月の結果がまだ出ていない ため、評価できていないが、 引き続き取り組みを進めてい く。	引き続き準備体操時のなわと びを続けることと、素早さや タイミングの良さに関連する 運動領域での指導を意識し ておこなう。また、体を動か すことが楽しくなるよう、 縦割りの活動を企画してい く。
	②健康教育の充実 家庭や地域と協力して メディア対策に関する 指導を充実し、より よい生活習慣の確立 をめざす。	保 健 主 事	家庭でのテレビ やゲームの時間 を減らし、早く 寝るなど規則正 しい生活を心が けている。	<児・保アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	B 児82.3 保79.5	ネットやゲームのルールはわか っていても、行動に移すことが 難しい児童も多いので、自 分で自分の健康で安全な 生活について考え、取 組めるように指導してい く。	学校保健委員会やまじっ子 がんばり週間等の取組を通 して、保護者と一緒により よい生活について考え、取 組めるようにしていく。
5 家庭・ 地域と の連 携	①家庭・地域との連携 PTAや学校運営協議 会と連携し、地域を 生かした教育の推進 を図る。	教 頭	学校と家庭(PTA) 地域(学校運営協 議会や見守り隊) の連携により、子 どもたちにより よい成果が出て きている。	<保護者アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 保95.0	保護者や地域の方(学校運営協 議会等)と連携し、PTA活動(各 専門委員会の活動)や学習サ ポートや学校支援(見守り隊 活動やあいさつ運動等)を計 画的に実施できた。	さらに、学校の諸問題を共有 しながら、対応していきたい。 また、計画的に学習サポ ート意識を一層地域の力 を振り起こしたら、活用し たりしていく。